

歯学部生の今

歯学部生の今

歯学科2年 大畑理恵

入学してから一年半が経とうとしている今、このように振り返る機会をいただけたことで、これまでの大学生活を見つめ直す良いきっかけとなりました。今回は、これまでの大学での生活を振り返りつつ2年生としての生活の中で私が感じていることを書いてみたいと思います。

まず、1年生の頃とは違い、歯学部生としての自覚が強くなってきたと感じています。1年生のときは五十嵐キャンパスで教養科目を中心に学んでいたため、歯学部生であるという実感を強く持つことは正直あまりありませんでした。しかし2年生に進級し、旭町キャンパスでの生活が始まってからは、毎日朝から専門的な授業を皆で受け、学ぶ内容もより実践的で難しくなり、聞いたことのない単語が続く授業についていくことに必死な毎日です。歯学部って細胞より細かいところも学ぶんだ…こんな細かい骨まで覚えるんだ…こんなに材料に種類があるんだ…という勉強の範囲の驚きから、どのように勉強すれば身につくのか、どこが大切なポイントなのかという勉強の方法の迷いまで、全てわからないが故に手も付けられない状況に何度もなりました。そして大変なその分、歯学を本格的に学んでいるという実感が強くなりました。日々学んでいる知識が、国家試験・そして歯科医師となった後にも直結するものであるため、自然と気が引き締まり、「なんとなく勉強する」ことはできなくなり、緊張感を持ちながら、患者さんの生活の質を高め笑顔を生み出せる歯科

医師になるという目標を見失わないように生活しています。

しかし、テストや課題に追われ、家事に部活にバイトにと、毎日があっという間に過ぎてしまう生活の中で心が折れそうになる瞬間もありました。そんな時にも頑張れたのは一緒に頑張る友達と励まし合いながら切磋琢磨して学び進めることが出来たからです。今までの環境とは違い皆が同じ目標に向かって努力している環境のため、勉強をする友達の姿に奮い立たされる毎日でした。引っかかっているポイントを聞けば誰かが教えてくれて、図書館に行ったら誰かが勉強していて、休み時間には勉強方法を共有して、勉強の辛さを共有して…そんな環境だからこそ頑張れたのだと今振り返って思います。

これから先、より実践的な内容や実習も増え、忙しく大変な日々が待っていると思います。ですがそんな時にも、患者さんの笑顔を生み出せる歯科医師になるという目標を見失わずに、今やるべきことを着実に積み重ねていきたいです。そして、そんな大変な中だからこそ、一緒に頑張る仲間をこれからも大切にし、支え合いながら前に進んでいきたいです。

また、勉強だけではなく部活や友人との息抜きの時間なども、私にとって大切な大学生活の一部です。勉強とそれ以外の時間をうまく切り替えながら、どちらも大切にし、歯学部生として充実した日々を過ごしたいと思います。まずは今夏休みに入り、夏休み明けの怒涛のテストに向けて、生活リズムを崩さず勉強に手を抜かない日々が送れるように頑張ります。

歯学部生の今

歯学科2年 早瀬大悟

この度、歯学部ニュースの執筆を拝命いたしました、歯学科2年の早瀬大悟と申します。2年生に進級し、旭町キャンパスでの新しい生活が始まって約4か月が経ちました。ここでは、私が日々の生活で感じたことを拙筆ながらご紹介いたします。

2年生になってからは、日々の忙しさに拍車がかかっていると感じます。というより、1年生の頃にのんびりと過ごしすぎていたのかもしれませんが。専門性が高く、高度な内容の授業とミスの許されないテスト。1年生の頃は何となく聞き流していた、「今のうちにたくさん遊んでおくんだよ。」という先輩方の言葉が、今ではしみじみと心に染みます。夜は居酒屋のアルバイトで慣れない接客に悪戦苦闘し、大学から始めた軽音楽では、自分の実力を少しでも高めていくために毎日欠かさず練習を続けています。予定の詰まったスマホのカレンダー。1週間、1ヶ月とあっという間に時が過ぎ去っていき、気が付けば夏休みに入っていました。この原稿も締め切り当日に執筆するという愚行に走っています。なんだか、ただただ私に計画性がないだけのような気がしてきましたが、とにかく、学業・アルバイト・部活動のすべてに全力で取り組む毎日は忙しくも充実しています。

でも、ふと立ち止まると「本当にこれでいいのか」と思うときがあります。自分は忙しさに流されているだけではないか。本当に歯科医師になりたい自分は、今ここにいいのか。そんな問いを心

の奥の自分がそっと投げかけてくるのです。

そんなとき、部屋に置いてあるラグビーボールに久しぶりに触れると、不思議と昔の記憶がよみがえってきました。そして思い出したのです。忘れていた初心を。歯科医師を目指そうと決意した想いを。

高2の冬、ラグビーの試合中にタックルをした際に相手の膝が私の下顎を直撃し、顎を同時に2ヶ所も骨折しました。年末で多くの病院に受け入れを断られる中、自治医科大学附属病院の口腔外科の先生が「大丈夫、引き受けるよ」と言ってくださったのです。地獄に仏とは正にこのことだと思いました。その後の手術も含めて、親身に対応してくれた先生の姿に私は憧れたのです。「自分もこの先生のように困っている人を助けたい」その想いが私を歯学部受験へと向かわせました。先生は受験の時も相談に乗ってくださり、合格したときは「おめでとう。歯科医師として待ってるよ。」と声をかけてくれました。あの時の温かさは今でも忘れません。私がこの歯学部で学んでいる原点はこの想いだったのです。

これからも忙しい毎日は続くと思います。しかし、あの日の初心を思い出した今、同じ景色が少し違って見えています。歯科医師になりたいという願いが自分の中で再び強い光を帯びてきたのです。夢は決して簡単に叶うものではありませんが、仲間たちと励まし合い、ときに悩みながらも少しずつ前に進んでいきたいと思っています。患者さんの不安を取り除き、笑顔に変えることのできる歯科医師を目指し、今ここで学んでいるすべてが未来の力になると信じて、これからの日々を大切に歩んでいきたいです。

歯学部生の今

歯学科3年 藤川 悌也

解剖がしんどい…

この度は歯学部ニュースの執筆という貴重な機会をいただきましたので、3年生前期を大まかに振り返るとともに、将来医療人として携わっていく、自分自身の現状を見つめ直したいと思います。

まずは、冒頭でも触れたように、解剖学実習の大変さについて述べます。3年生の4月から7月中旬の約3か月半にわたる解剖学実習は、先輩から聞いていたよりもハードで、心身ともに疲れを感じるものでした。先輩からは口頭試問が大変だと聞いていましたが、実際には解剖そのものが最も難しかったです。もちろん手先が器用であったり、技術、知識というバックグラウンドによって左右されると思いますが、自分はとにかくメンタル勝負だったかなと思います。特に、後半は怒涛の勢いで進めたため、火曜と木曜の午後が息つく間もなく過ぎていきました。また、自分たちは学年としての人数も少なく、一班当たりの人数も少ないため、実際に課されるタスクは並み以上であったと思います。ただ、その中で班員と協力しながら学び、実践していくという行為はまさしく学問の理想像だったと思います。事実、4月当初と比べると格段に班員との仲も深まりましたし、インストラクターの先生との距離も近づいたと感じています。協力しながらご献体を解剖させていただくことで教科書などから得た知識との統合が

でき、とても良い勉強になりました。自分が思っている以上に人体の構造は緻密に制御されていて進化論における、ホモサピエンスの進化過程で、これほど精密な構造が成立するのかと疑問を抱くほどでした。最後まで丁寧にご指導とご鞭撻していただいた先生方には、本当に感謝しております。

自分にとって3年生というのはある意味で一番大事な学年だと思っています。というのも6年間という学生生活で考えたときにこの学年までがのびのびと学べる学年だと思うからです。先輩を見てきて、4年生と3年生というのは一年間という期間では表しきれないほどの差があると思います。4・5・6年生はすでに「歯科医師として働く」気概を感じるからです。もちろん3年生の後期から専門的な勉強が始まると聞いていますが学年が上がれば上がるほどそれはより臨床的になっていくので自分にとってそれはまさしく歯科医師としての勉強をしていく学年だと思っています。この学年は医療人としての基本的素養をしっかりと身に着ける最後の学年だと思っています。それゆえにいい意味で歯科医師という職に縛られずにのびのびと勉強できる最後の学年かなと感じています。自分は今の医療は全人的医療がコンセプトであると思っており、それは必ずしもその分野に精通したからといって成し遂げられることではないと思います。専門知識を裏付ける医療人としての人間性、コミュニケーション能力などの素養が欠かせないと考えます。そのためにも今の勉強、時間をより有効に活用し、後期からの学びにも全力で取り組みたいと思います。

歯学部生の今

歯学科 3 年 丹 美咲子

気づけば夏休みが目前まで迫ってきています。日々、一つの試験が終われば次の試験と追われているうちにここまで来たように感じます。今回、このような機会をいただき、拙い文章ですが「歯学部生の今」について、自己紹介、3年前期の授業、所属している部活動の順に書いていきたいと思います。

出身は秋田県です。同じ日本海側に位置し、羽越線一本で往来できる新潟には子供の頃から親しみを感じていました。実際に暮らしてみると、全然違うと感じる部分も多々あります。秋田と新潟のお米の味の違い、吹く風の強さ、そして想像以上の夏の暑さには驚きました。新潟大学は私にとって2つ目の大学です。最初の大学では、コロナ禍だったこともあり、思い描いていた学生生活とはかけ離れた日々を送っていました。当時と比べると、今はとても大学生らしい充実した毎日です。感染対策は現在でも続いているのですが、授業は全て対面で受けることができます。ありがたいことです。

次に3年前期の授業についてです。去年は基礎医学中心の座学がほとんどでしたが、3年生になってからは専門である口腔に関する授業がぐんと増えました。3年前期のメイン科目はやはり人体解剖学実習です。4、5人で1グループとなり、それぞれの班でご献体を解剖します。解剖学の知識を持ったうえで、手順に従って解剖を進め

ることが必須で、とても体力を使う実習です。実習終了後は心身ともにへとへとに疲れます。人体の構造を明らかにし、解剖の手順を確立させた先人たちの努力には頭が下がります。そして何より感動したのは人体の、芸術とも言える美しさでした。献体してくださった方々とそのご遺族には感謝しかありません。ありがとうございます。

私は江戸千家茶道部に所属しています。活動日は毎週木曜日、医歯学部合同です。先輩方はとても親切でよく面倒を見てくださり感謝しています。茶道部では年に2回、夏と冬にお茶会が開かれます。弛まず丁寧に日々のお稽古に取り組むことで作法が身についていく感覚は、生活にも学業にも通じるものだと感じています。勉強も、毎日コツコツと進めることでしっかりと定着できるように、と思うのですが、なかなか難しく、いつも試験直前に焦ってばかりです。茶道部は部員募集中です。少しでも興味がある方はぜひ見学にいらしてください。お茶をいただく時は、日常から離れた優雅な落ち着いた時間です。このひとときを是非とも体験してほしいと思います。

夏休みが明けると（昨年もそうでしたが）試験期間が始まってしまいます。試験のことを考えると今から気が重いというのが正直な気持ちです。直前暗記を苦手とする私は、今から少しずつ試験勉強を始めるしかありません。

最後になりますが、少し年上ながら、人見知りの私と仲良くしてくれる同期と茶道部の皆様、熱心に指導して下さる先生方、再受験を応援してくれた家族と高校時代の恩師に心から感謝申し上げます。

歯学部生の今

歯学科4年 宮 倉 麻 衣

大学生活の折り返し地点である4年生になり半年が経過しました。口腔病理学、口腔外科学、有床義歯学など昨年よりもさらに具体的で専門性の高い内容の授業を多く行っています。一年後に控えるCBTやOSCEに向けて、知識を蓄えるだけでなく臨床を意識して学ぶことを大切にしています。

口腔病理学では、臨床所見や病理組織所見、X線所見から疾患名を診断し、その疾患の特徴や原因、治療法などを考える症例検討を行ってきました。病理組織所見などが類似していることにより鑑別が難しい疾患もあり、全ての情報を総合して、重要な所見を見落とさないよう意識して行いました。しかし、先生の解説を聞くと自分の考えが足りていなかった部分もあったため、今後も復習していきたいと思いました。

有床義歯学では座学と並行して欠損補綴学の実習を行っており、全部床義歯を製作しました。無歯顎模型の印象採得から始まり、個人トレーや咬合床の作成、人工歯排列や歯肉形成、埋没、重合を経て、現在は研磨を行っています。最初に行う印象採得では印象体に気泡が入ってしまうことが何回もあり、とても苦労しました。人工歯排列では先生のアドバイスをもとに、mm単位のズレを修正しながら審美性や機能性の良い排列を目指しました。とても細かい作業が多く、集中力が必要であったため大変でしたが、やり切ることができたと思います。

歯科矯正学は、自分が歯科矯正をしていたときに疑問に思っていた、矯正で歯が動く仕組みや抜歯・非抜歯の理由などを学ぶことができ、とても

有意義な授業でした。トレース実習ではセファログラムを用いて骨格や歯をトレースし、その位置関係を角度的に分析するという作業を体験しました。特にSNA角やSNB角、ANB角などの計測を通して、骨格性の不正咬合の診断において数値の持つ意味を体感できたことは、大きな学びでした。

授業や実習をこなす日々の中、5月末には歯学部運動会が開催され良い息抜きになりました。玉入れや大縄跳び、学年対抗リレーなどの競技があり、ムカデ競争ではヒモが切れるというアクシデントもありましたが、楽しむことができました。私の学年は総合2位で終わってしまいましたが、学年で一致団結して臨むことができ、とても良い思い出になったと思います。

振り返ると、少しずつではありますが知識や技術に対する理解が深まってきたと感じます。今後とも日々の学びを大切にしながら、歯科医師としての基盤をしっかり築いていきたいです。



欠損補綴学実習で製作中の全部床義歯

歯学科4年生になって思うこと

歯学科4年 小林 丈 晃

歯学科4年生になって、早くも前期が終わろうとしています。ちょうど1年ほど前、3年生の前期までは、解剖学や生理学、生化学、組織学などの基礎系の科目が中心でしたが、3年生の後期からは歯の形態学や保存修復学、歯冠修復学など臨床系の科目や実習が増え、一気に歯学部らしい内容になりました。基礎系科目は試験が厳しく、膨大な範囲を理解・暗記する必要がありましたが、いざ臨床系の科目が始まると、これまで学んできたことが着実に土台の知識として活かしていることを実感しています。また、実習は支台歯形成や印象採得など、臨床に直結する内容であり、ついに本格的に「歯科医師としての訓練が始まったな」と感じました。

現在は、全部床義歯の実習が終盤に差し掛かっています。研究用模型、個人トレーの製作から始まり、咬合採得、人工歯排列、歯肉形成、重合、研磨に至るまで、ひとつひとつの工程に精度が求められ、少しずつのずれが積み積もって後々に大きな皺寄せとなることを実感しました。思うように作業が進まず、何度もやり直すことになったり、指導を受けては自分の至らなさを痛感したりと、理想と現実のギャップに戸惑うことも多くありました。それでも、もし次に同じことを行う機会があれば、今よりもきっとスムーズに、より良いものをつくれるという手応えも得られましたし、実習を通じて義歯に対する理解が深まった実

感もあったので、第一歩としては、感触はとてもポジティブです。

4年生の後期からは、さらに多くの実習科目が始まります。今以上に時間的にも精神的にも余裕がなくなることは容易に想像できますが、その分、貴重な時期になると考えています。

実習を通じて歯科医師という職業を意識する機会が増え、将来について考えることも少しずつ増えてきました。私は2年次から編入し、それ以前はしばらく企業で開発職に就いていました。職場には、今でも尊敬してやまない、いわば師匠のような先輩がいて、その後ろ姿を追いながら多くのことを学ばせていただきました。組織では、さまざまな立場から異なる利害や思惑が交錯し、その結果導かれる決定は、しばしば「お客様のため」というよりも、「組織にとって楽で都合のよい選択」に偏ってしまうことがあるように感じていました。そのような状況の中で、私がその大きな流れに流されそうになるたび、先輩は「最終的に大切なのは、自分がどうしたいか、そしてお客様がどう感じるかだ」と言い、たとえ困難な道であっても信念をもってあえて選び、誰よりも強く、そしてその強さゆえに誰よりも優しく、私を支えてくれました。

歯科医師としての将来像はまだはっきりとは描けていませんが、先輩から学んだ仕事に対する姿勢は、私の中でひとつのぶれない軸として残っています。これからも、実習と座学の両面に真摯に向き合いながら、将来、患者さんに安心と信頼を届けられる、誠実で力のある歯科医師を目指していきます。

歯学部生の今

歯学科5年 棚 邊 夏 美

今年の4月、初めて着る緑衣に新鮮さと少しの不安を抱きながら、歯学部生5年目がスタートしました。

5年生では、全身管理学、総合模型実習、ポリクリなど、「臨床」や「患者さん」を強く意識させられる講義や実習が主になります。麻酔計画や論文についてグループで調査・検討して発表するものや、症例に応じた治療計画を自分自身で1から考えるような実習もあり、これまで学んできた知識や手技手法を広く活用することが求められるようになりました。特に、麻酔や治療の計画を立てる際には、歯科治療に際して考慮すべき事項の多さを実感し、難しさとやりがいを感じました。講義や実習を進める中では、知識の定着が不十分だと感じられることも多々ありますが、よい復習の機会だと考えて知識の定着に努めています。

また、ポリクリの実習は、私にとって患者さんの存在を特に強く意識するきっかけになりました。ポリクリでは、同級生とお互いに口腔内での操作を練習しあうので、患者さんの痛みへの配慮

など、模型実習では疎かになりがちであった部分も確認することができます。私の班の最初の相互実習はフッ化物塗布でしたが、患者役の学生の口の中に歯ブラシを入れるだけでも少し緊張しました。その後の浸潤麻酔の相互実習でも、他人に針を刺すという経験は初めてだったこともあって、かなり緊張したことを覚えています。実際の口腔内での操作は初めてのことばかりなので、今はうまくできないこともあります。「一緒に練習して上手にできるようになろう」という気持ちでお互いに実習をしています。実際の患者さんに対しても自信を持って安全に治療ができるよう、一回一回の実習内容と感覚を忘れないようにして、今後も真摯に実習していきたいと思います。

私たちは今、7月末のCBT・OSCEに向けた学習に力を入れています。個人としては、知識の面でも技術の面でもまだまだ至らないと感じることも多く、不安もありますが、クラスの仲間と互いに確認や相談をしながら頑張っています。CBT・OSCEを乗り越えると、10月からは臨床実習が始まります。各種試験をクリアするに足る知識と技術はもちろんですが、臨床の場で必要とされるコミュニケーション能力などの技能も日々の学習で培っていきたいと思っています。



ポリクリ E・F班のメンバーと。(著者は前列一番右)

歯学部生の今

歯学科5年 柏瀬莉緒

この度は、歯学部ニュースに執筆の機会をいただき、ありがとうございます。私は現在、歯学科の5年生として日々研鑽を重ねています。この文章では、5年生になってからの生活や学びについて少しご紹介させていただきたいと思います。

5年生の今、春には「あと3ヶ月だ」と言っていたCBTとOSCEが目前に迫り、時の流れの速さに焦りを感じつつ、とにかく知識を頭にいれる日々です。後期から始まる臨床実習に向けた実習にも取り組んでおり、毎実習新たな経験を積むことができ、とても良い刺激を受けています。

5年生に進級して最も大きく変化したと感じているのは、実習の内容です。これまでは模型を使い、基本的な手技を一人で繰り返し練習することが中心でした。しかし今は、実際の臨床を意識した、“考える実習”が増えました。なかでも印象的な実習が2つあります。

ひとつは「総合模型実習」です。これは、う蝕、歯周病、歯髄疾患、歯の欠損など、複数の疾患が含まれる一つの模型を用いて、自ら治療計画を立てて処置を進めていくというものです。クラスメート一人ひとりが異なる診断・方針を持っており、同じ模型を使っているにもかかわらず、毎回隣の人と違うことをしているのが、はじめは新鮮な感覚でし

た。また、実習を進めながら「抜歯は先にやるべきだった」など、個々の治療計画で未熟な点がどんどん見つかり、毎回刺激を受けながら実習を進めています。今までの「正解」が明確な実習とは異なり、診断から技術選択まで自分で考え、責任をもって進めることの難しさと面白さを感じています。

もうひとつは「予備臨床実習（ポリクリ）」です。これは後期から始まる臨床実習に備えて、各診療科での基本的な手技や治療の流れなどについて学び、実際に人に対して処置を行う練習をするという実習です。いくつかの班に分かれ各診療科をローテーション形式で回るのですが、初回到口腔外科を回ることになり、「相互で採血を行う」と知った時は、驚きと緊張で前日寝られませんでした。実際に体験してみると、座学では得られない緊張感と達成感があり、「これから自分たちは“人に触れる”医療者になるんだ」と気が引き締まりました。

5年生は、知識と技術の双方の向上が問われる、非常に密度の高い一年です。未熟であることを度々思い知らされ、焦りや不安を感じることもありますが、将来患者さんの前に立つ自分を想像しながら、一つ一つの経験を大切に過ごしています。

今後も一人前の歯科医師を目指し、仲間とともに努力を続けてまいりたいと思います。



臨床予備実習 班員のみんなと（著者は下段右側）

歯学部生の今

歯学科6年 上野朋佳

右も左もわからないような状態から始まった臨床実習も、残すところ約2か月となりました。この度は歯学部ニュース執筆という貴重な機会をいただきましたので、間もなく始まる人生最後の夏休みを前に、これまでの臨床実習を振り返りたいと思います。

5年生の10月に行われた登院式を境に、実際に患者さんを診療させて頂く診療参加型臨床実習が始まりました。患者さんと実際に対面する前は、自分の中で「診療が怖い」という感情が一番大きかったことを覚えています。患者さんを相手にして口腔内に器具を入れるという行為自体に、恐怖を感じていました。しかし、引継ぎ診療にて少しずつ患者さんの歯周・義歯メンテナンスを行わせていただくにつれて、診療への恐怖は少なくなっていきました。

引継ぎ診療が終了し、11月になりクラウンブリッジや義歯の診療が始まりました。5年生の前半までに講義や実習で学んだことに加え、患者さんの口腔内の状況を考えながら治療計画やレポートの作成を行い、それに基づいて先生方とディスカッションを行うことで診療前にしっかりと準備

を行うことができました。診療では、先生方に助けていただきながら、術者として、そして良い術者になるためには良いアシスタントになり先を見越した行動を術者の邪魔にならず届きやすい位置で行うことが重要であることも学びました。

それからは、診療や見学、係、放課後のプレチェック、ポストチェック、形成練習と忙しい日々を送り、気が付けば6年生になっていました。臨床実習も折り返し地点を過ぎ自分ができる範囲・できない範囲の把握や、患者さんの問診と口腔内の所見を整理するということが重要であると感じると同時にそれらの難しさを感じています。

臨床実習も残り2か月となりました。これまでの臨床実習を振り返り、協力してくださる患者さん、お忙しい中プレチェック・ポストチェックを行ってくださり、診療時も指導してくださるライターの先生方に感謝の気持ちを忘れずに、またその中で学んだことをもとに自分の知識・技術の向上に努めていきたいと思います。

臨床実習の先には、歯科医師国家試験が待ち構えています。歯科医師への第一歩として、まずは国試に合格しその先の学びを進めることがお世話になっている方々への恩返しの一つになると思います。そのためにも一日一日を大切に、成長していけるように努力していきたいです。



技工室で56期のみんなと（筆者は後列左から2番目）

長いようで短い臨床実習

歯学科6年 桐 生 真依子

「歯学部生の今」というテーマのもと、今回、歯学部ニュースを執筆することになり、なにを書こうかと思いながら、今パソコンの前にいます。卒業までに1度は書いてみたいと密かに思っていたため、このような機会をいただき、光栄です。

拙い文章となるかもしれませんが、読んでいただけますと嬉しいです。

さて、私たち6年生は現在、臨床実習の真っ只中です。臨床実習を修了するには、最低限の診療達成数を外来の患者さんで治療・見学をさせていただき、「ミニマムリクワイアメント」と、各科診療項目に付けられた規定点数の換算で「400点」を取得することが必須条件となります。診療を行うためには、事前レポートや先生とのディスカッション、技工物の製作、ポートフォリオ作成を行う必要があります。事前準備等のために多くの時間と労力をかけることになります。このような準備の上で、患者さんの治療を行い、帰られる際に、「ありがとう、きれいになって良かった。」と一言声をかけていただくだけで、これまで割いた時間や努力が実を結んだような気持ちになり、毎回温かい気持ちになります。

一方で、私たち6年生は、外来実習以外のほとんどの時間は、学生技工室という部屋にいます。各々、勉強・技工物製作・他愛もない話で盛り上がったり…と自由に過ごしており、もう一つの家のような場所です。今は、マッチング試験の時期で、研修先や将来について話している子が多く、毎日とても刺激になります。

私は、他の大学を卒業し、医療系国家資格取得後、会社員を経て、2年次編入にて歯学部に入学しています。これまでの5年間、大変だったこともありましたが、なんとか乗り越えてこられたのも、急に2年生から入った歳の離れた私を迎え入れてくれ、やるときはやるというメリハリの利いた56期の同期たちのお陰であると、5年経った今、しみじみと感じています。10月には後輩に実習引継ぎとなります。まだ2か月ほど残されていますが、振り返るとあっという間の臨床実習でした。

残りの実習と、集大成である国家試験に全力で取り組み、後悔のない「最後の大学生生活」を送りたいと思います。

無事に歯科医師になれた暁には、実習に協力してくださった患者さんや、ご指導いただいた先生方、同期たちに恩返しができるような、奉仕の心を持った歯科医師になりたいです。



愉快的仲間たちと夕方の学生技工室にて。筆者、前列向かって左。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 山口 栞

歯学部に入學してから1年以上が経ち、現在は2年生として旭町キャンパスで新たな学生生活を送っています。講義の内容も専門性が増し、学びの環境も大きく変わったことで、日々緊張感を持って取り組んでいます。講義や実習を重ねていくうちに、「自分は口腔生命福祉学科の一員である」という自覚が、次第に心の中に根付き始めました。

2年生からは、歯学部の特徴でもあるPBLの授業が始まりました。与えられた課題に対し、自分たちで考え、調べ、グループの仲間と意見を出し合いながら問題の本質を捉えていくこの学習方法は、それまで経験してきた一方向的な授業とは大きく異なり、能動的な学びが求められるため、初めは戸惑いや不安もありました。しかし、私たちのグループは、互いの意見を尊重し合い、補い合う雰囲気や自然と築くことができ、毎回のディスカッションから多くの学びや気づきを得ています。PBLでは、知識の習得に加えて、チームで協力して問題に向き合う力や、自分とは異なる価値観を理解しようとする姿勢も養われていると感じています。これは、今後現場で多職種と連携する際にも、きっと大きな力になると思います。グループの仲間たちとの協働を通して学ぶことができたこの時間は、私にとってとても貴重な経験となりました。

また、「歯科衛生士概論」の講義では、現場での実務経験が豊富な歯科衛生士や社会福祉士の先

生方から、歯科衛生士の仕事の実際や、その職域の広がりについて詳しくお話を伺うことができました。私は大学入試の時点で、自分なりに卒業後の進路についてある程度考えていたつもりでしたが、講義を通じてその考えが大きく広がりました。歯科衛生士は口腔の健康を支えるだけでなく、介護や福祉、地域包括ケア、教育現場など、多様な分野で求められている存在であることを知り、「こういう場で役に立ちたい」「こんな人の力になりたい」といった思いがどんどん湧き上がってきました。一方で、可能性が広がるにつれて、自分がどの道に進むべきか迷う気持ちも強くなりました。それでも、自分の中から自然と湧き上がるやりたいことややりたい姿があるということは、この学科を選んだ意味があったのだと、あらためて感じることができました。

最近では、歯科衛生士・社会福祉士としての専門技術だけでなく、人と向き合う姿勢の大切さを考えるようになりました。患者さんの不安や生活背景に目を向け、信頼関係を築くことも、この職業にとって重要な役割の一つだと思います。そのためにも、知識や技術に加え、相手の立場に寄り添う気持ちや思いやりの心を持つことを、これらの学びの中で大切にしていきたいと考えています。

今後も、日々の学びや実習の中で新しい発見や悩みに直面することはあると思いますが、一つ一つと丁寧に向き合いながら、自分の可能性を広げていきたいです。そして将来、自信を持って進路を選び、人の役に立てる歯科衛生士・社会福祉士として成長していけるよう、これからも努力を重ねてまいります。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 橋本 凜

三年生に進級してから、あっという間に三ヶ月が経ちました。この三ヶ月間を振り返ると、多くの学びや気づきがあり、充実した日々を過ごしていたことを実感します。特に四月から六月にかけては、約二ヶ月間にわたり、幼稚園での歯科保健指導実習の準備と発表に取り組みました。

未満児から六歳までと、成長や発達の段階に個人差が大きい幼児たちとの関わりは、私にとって非常に貴重な経験となりました。実習では、クラス全員で劇の発表を行いました。子どもたちを楽しんでもらうためには、理解しやすい内容であることと、最後まで飽きずに観てもらえる工夫が必要でした。場面転換のわかりやすさや声の大きさ、表情などの細かな点にも気を配りながら、何度も話し合いを重ねて劇を作り上げました。クラスの皆と協力してやり遂げることができ、大きな達成感につながりました。

また、学年別に行った発表では、「その歳に起こりうる口腔内の変化」をテーマに掲げました。私は年長クラスの担当であったため、段ボールとペットボトルを用いて萌出途中の第一大臼歯を再現した顎模型を作成し、さらにクイズを用意するなど、子どもたちが楽しみながら学べるように工夫しました。実際に自分達の手で顎模型を作る作業は大変でしたが、子どもたちが楽しそうに顎模型で遊んでいる姿を見たときは、非常に嬉しくな

りました。これらの経験は、今後の保健指導の現場でも活かされたいと思いました。

三年生になってからの大きな変化は、「福祉」の学びが始まったことです。これまでは歯科分野を中心に学んでいましたが、現在は福祉と歯科の学習が半々の割合で進められています。福祉分野では主にPBLを通して学んでいます。PBLでは一つのシナリオから事実を抽出し、課題を挙げ、仮説を立て、各々が情報を調べて討論します。自分たちで答えを導き出していく学習方法は、初めは戸惑うこともありましたが、今では他の人の意見にも触れることで視野が広がり、自分の考えを深める貴重な機会だと感じています。

夏休み明けのテストを終えると、医歯学総合病院での臨床実習が始まります。これまで授業や校内実習で身につけてきた知識や技術を、実際の医療現場でどのように活かすことができるのかを自分自身の目で確かめ、経験できることが今から非常に楽しみな反面、緊張します。また、現場ならではの工夫や配慮、チームでの連携の大切さなど、教科書だけでは学べない現場の空気を体感することも、今後の成長に大きくつながると思います。そして、限られた時間の中で正確に処置を行う技術だけでなく、患者さんの気持ちに寄り添う姿勢や、安心感を与える声かけ、表情などもよく観察し、理解を深めたいと思っています。病院実習で得た知識や経験を今後の学びに還元し、常に向上心をもって学び続けたいと思います。そして歯科衛生士として必要な技術や能力、心遣いを少しずつ確実に積み重ねていきたいです。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科4年 亀井恵莉

4年生になって早くも4カ月が経とうとしています。私たちは月曜日～木曜日に大学病院で歯科衛生士臨床実習をさせていただいています。早く、どうか平穏に木曜日まで終わってほしいと思う月曜日、学んだこととできなかったことを数える金曜日、そんな1週間を繰り返すうちに着々と特論の提出期限や国家試験、そして卒業が近づいていることに気付き、少し焦りを感じながら過ごしています。

臨床実習では、診療が行われている現場で、実際に患者さんへの治療のアシストやクリーニング、歯科保健指導をさせていただいています。貴重なことであり、責任感を感じています。実習前にはこれまで学んだことを復習し、イメージトレーニングをしてから実習に臨み、教室に戻ってから教科書などを用いて処置の流れや器具・薬品について復習しています。反省点については同じミスを繰り返さないように知識・技術・心構えを確認し、次の日に臨みます。この積み重ねにより、まだ満足のいくアシストはできていないものの、色々なことに気付いてスムーズに動けるようになってきました。また私自身、始めの頃は焦りや不安により起きた失敗も多くありました。自分の未熟さを感じ落ち込むこともありますが、先生方や衛生士さんが励ましてくださり、友人にも聞いてもらい、失敗を恐れずに前を向くことができ

ています。いつもご指導いただき、励ましていただき、本当にありがとうございます。先生方のスムーズな診療を支え、患者さんに寄り添い健康を支えることができる歯科衛生士になれるよう、今後も多くのことを学び、考察し、励まし合いながら皆で成長していきたいと思います。

また、それぞれが選んだ実習場所で1カ月間、社会福祉現場実習をさせていただいています。福祉の現場を経験できる貴重な機会です。3年生の2月にも2週間の実習をさせていただきました。私は特養併設型のショートステイで生活相談員さんのお仕事を間近で見学させていただき利用者さんと実際に関わらせていただく中で、「その人らしさ」を尊重して支援することの大切さや、生活相談員を始めとした職員の皆さんの思いなど、座学では学ぶことができない多くのことを学びました。10月には、就労支援B型事業所で実習をさせていただく予定です。障がいをもつ利用者さんの「できること」に着目した支援について、お仕事を見学し、利用者さんと関わり、さらに多くのことを学び経験したいと考えています。

4年生になって臨床実習が私たちのメインとなり、毎日濃い経験をさせていただいています。思い描いていた大学生活とは違い不安なことや大変なこともたくさんありました。乗り越えられているのは一緒に笑い励ましてくれる仲間たちのおかげです。口腔生命福祉学科19期の皆には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも夢に向かって切磋琢磨していきたいと思います。

歯学部運動会を終えて

歯学科 5 年 山 本 采 奈

今年の歯学部運動会を終えて、今は安堵と達成感でいっぱいです。私は今年度、運動会委員長という大役を務めさせていただきました。準備期間中はわからないことも多く不安もありましたが、5年生が中心となって各学年をまとめてくれたおかげで、無事に運動会を終えることができました。

運動会の準備は1か月前から始まりました。限られた時間の中で多くのことを並行して進める必要があり、それぞれが講義や実習の合間を縫って動くという、まさに「歯学部らしい」タイトなスケジュールでした。

今までは学年ごとに立て看板を制作していましたが、ベニヤ板の老朽化のため準備段階で廃止を決定し、代わりに旗を制作しました。私が入学する前から続いていた立て看板の制作を私たちの代で廃止してよいのかと迷いもありましたが、同じ学年や担当の先生に確認し、各学年にも意見を求めたところ、特に反対意見はなかったため旗の制作を進めていくことにしました。

当日を迎えるまで天候の心配があり、不安は尽きませんでした。しかし、開会式が始まり、バドミントン部の後輩の出し物に続き、ちいかわたちの選手宣誓が響いた瞬間に「無事運動会を開催でき

てよかった」という思いでいっぱいになりました。

運動会当日は、どのチームも全力で競技に取り組み、応援にも熱が入り、本当に素晴らしい一日でした。運動会委員長として皆さんの真剣な姿や楽しそうな笑顔を見て、心から嬉しくなりました。

また、普段は交流が限られがちな他学年や先生方と一緒に体を動かし、笑い合える場を作ることができたことも、委員長として誇らしく思っています。教室や実習室の中では見られない一面がそこにはあり、人と人とのつながりの温かさを改めて感じました。

今回の運動会を通して、「何かを一緒に作り上げる喜び」「誰かのために動く責任」など、机の上だけでは学べない多くのことを得ることができました。運動会は一日で終わってしまいましたが、その過程で得た経験や仲間との絆は、これから先も残り続けると思います。

最後に、この運動会の開催に協力してくださった先生方、学務の方々、そして学生の皆さんに心より感謝申し上げます。皆さん一人一人の協力と笑顔があったからこそ、今年の運動会も成功裏に終えることができたと思います。なかなかできない体験をさせていただき、ありがとうございました。



5年生集合写真（筆者は前から4列目の右から2番目）

部活動紹介

軽音楽部Liars（ライアーズ）

歯学科2年 中 塚 莉 乃

こんにちは、新潟大学歯学部軽音楽部Liars（ライアーズ）です。私たちは、主に古町の会場で年5回ライブを行っており、本番に向けて主体的に日々練習を重ねています。今年度は10名の新入部員を迎え、音楽を共に楽しむ仲間が年々増えていることに喜びとやりがいを感じています。部員の多くが大学から楽器を始めた初心者ですが、歯学部の高いカリキュラムと並行しながら、授業や学業の隙間時間を見つけて練習に励んでいます。

今年度は4月に3回の楽器体験会を開催し、新入生にすべての楽器に触ってもらうことができました。また、練習の仕方や演奏技術などを先輩に相談できる場も設け、自分が演奏する姿をより具体的にイメージできるようになったと思います。Liarsは自主練習が基本で定期的集まる機会がないからこそ、現部員同士の仲も深めるいい機会になったと感じています。ライブでは学年の垣根を超えてバンドを組むことも多く、初心者の部員も先輩に支えられながら安心して演奏に取り組むことができます。また、和気あいあいとした雰囲気

気の中でも互いに刺激しあうことができ、仲間意識や交流が生まれるところがLiarsのいいところだと思います。

6月には古町で新歓ライブを開催しました。新入部員にはまずLiarsの雰囲気を知ってライブの楽しさを実感してもらおうと、今回のライブでは有名な曲を多く取り入れたステージを準備しました。初ライブを迎えた部員や普段とは違う楽器に挑戦した部員、久々にステージに立った部員もあり、新たな挑戦を通して一人ひとりが成長できる機会にもなりました。ライブは成功に終わり、多くの新入部員にも音楽の魅力を感じてもらえたのではないかと思います。先輩たちのステージを見て新入部員の皆さんが積極的にライブに出演し、部活を盛り上げてくれたら嬉しいです。

最後に、日頃よりLiarsの活動を支えてくださっている顧問の先生方、OBOGの皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。今後も変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



Liars 6月ライブ 筆者は前から3列目、左から2番目

歯学部だからできるボランティア

InDeVO代表 川 添 杏 月

みなさんこんにちは！ InDeVO（インデボ）です。今回は、あまり周知されていないInDeVOの活動について皆さんに少しでも知っていただけたら嬉しいです。

まずは生い立ちから簡単に紹介させていただきます。InDeVOとはInternational Dental Volunteerを省略したサークル名で歯学部の先輩方によって2018年に創部されました。当時は国際歯科保健を中心に活動する目的で作られましたがコロナ禍で活動が妨げられ、現在では地域歯科保健が中心の活動を行っています。

さて生い立ちはこの程度にして、ここからはInDeVOの活動について去年の活動を元に紹介させていただきます。InDeVOは主に地域のイベントに参加しており、西区や古町、新大祭などで屋台のようにブースの一角として幅広く参加しています。学生主体であるため、企画、準備、運営などの全てを自分たちで行っています。イベントで触れ合う方々は主にお子さん連れの家族が多く、子供たちに歯について興味を持って貰えるようなテーマで活動する事が多いです。去年のイベントでは上下顎の歯が一本ずつ抜ける模型を使い、パズル感覚で歯の形や大きさなどを学んで貰うような企画や子供用の歯磨剤にはいろいろな味がある事を利用して味を当てるゲームをして、歯磨きに対する苦手意識をなくせるような企画を行いました。その企画を楽しんだ後に年齢に応じた子供用の歯ブラシやフロスを見せたり、実際に模型で磨く練習をして貰ったりする事で、歯科に興味を持って貰いながら歯が大切なものである事を理解して貰えるような工夫をしました。ゲーム感覚で行う事で子供達が「もう1回！」と何回もやって

くれたり、「なんでこんな形なの？」と疑問に思ってくれたり、自分の歯や歯磨きの仕方、歯医者さんの話をしてくれるようになったりと歯科に対してポジティブな感情を持ってくれるようになり、私たちもやりがいを感じました。保護者の方や学生も簡単にできるので、大人の方とても興味を持ってくれました。私たち自身も学んだ知識を活用できたり、後輩は先輩に教えて貰ったりと誰もが楽しく学んでいける環境を作る事ができ、メンバー同士でもいい関係が築けました。

今回はInDeVOの魅力の一部しか皆さんにお伝えする事はできませんでしたが、ぜひイベントが近くでやっていたら、私たちのブースに遊びにきていただいて、魅力を知っていただけたらいいなと思っています！

最後にInDeVOを支えてくださる先輩方や顧問の葭原先生、学務の方々、地域の方々へこの場をお借りして感謝申し上げますと共に今後もしよう



西区あきまつりの様子
筆者は下段右から2番目